

【共通の設問】次の傍線部「べし」の用法を答えよ。(答え・解説は解答編)

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1.

雨降るべし。

Q2.

我れ行くべし。

Q3.

君は早く帰るべし。

Q4.

子は親に孝なるべし。

Q5.

この本、よく読むべからず。

Q6.

早く立つべし。

Q7.

我れ歌詠むべし。

Q8.

風吹くべし。

Q9.

物食ふべからず。

Q10.

人は信義を守るべし。

Q11.

月明らかなるべし。

Q12.

我れ仕うまつるべし。

Q13.

君、おとなしくすべし。

Q14.

学問は若き時に励むべし。

Q15.

あらゆる事、はかり知るべからず。

Q16.

我れもまた行くべし。

Q17.

月は西に傾くべし。

Q18.

早く眠るべし。

Q19.

信頼に値する人なるべし。

Q20.

我れ歌の道に進むべし。

## 【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21.

物のあはれを知る人、世にあるべし。

Q22.

我れ風雅を極むべし。

Q23.

学者の言は、軽んずべからず。

Q24.

雪降れば、雪靴を履くべし。

Q25.

いみじき宿世の人なるべし。

Q26.

早く出で給ふべし。

Q27.

我れ仏に仕へ奉るべし。

Q28.

親を敬ふべし。

Q29.

心ある人にあらずしては、これを解すべからず。

Q30.

春には花を愛づべし。

Q31.

我れ古典の道を究むべし。

Q32.

君、長く生き給ふべし。

Q33.

人皆、夢を見るべし。

Q34.

道は険しかるべし。

Q35.

我れ仏前に詣づべし。

Q36.

礼節を守るべし。

Q37.

都に住む人、皆風雅を解すべし。

Q38.

妻を愛しむべし。

Q39.

真夜中に物音、何ぞあるべき。

Q40.

我れ若き時に学ぶべきなりけり。

Q41.

早く帰り給ふべし。

Q42.

春の野に若葉を摘むべし。

Q43.

人皆、限りある身なるべし。

Q44.

子を慈しむべきこと、親の務めなり。

Q45.

我れもまた、その道を行くべし。

Q46.

仏の道は、皆同じくすべし。

Q47.

海の幸を食ふべからず。

Q48.

我れ歌を詠むべきことを思ふ。

Q49.

風吹かば、舟漕ぐべし。

Q50.

いと尊き人なるべし。

### 【第3部】 応用編（Q51～Q80）

Q51.

春来（き）ぬべし。

Q52.

我れ仕うまつるべき人ぞある。

Q53.

風吹けば、波荒く立つべし。

Q54.

子を捨つべからず。

Q55.

我れ静かに住まひすべし。

Q56.

いみじき才ある人にあらぬべし。

Q57.

風雅を解する人は、世に少なかるべし。

Q58.

人皆、長く生くべきにあらず。

Q59.

我れ古都に住まひすべきものなり。

Q60.

春は若菜を食ふべし。

Q61.

我れ歌詠まむべき機会あらば、必ず詠まむ。

Q62.

君や知るべし。

Q63.

月を愛づべき夜ぞある。

Q64.

親を見舞ふべし。

Q65.

風吹かば散るべき花。

Q66.

いざ参らせ給ふべし。

Q67.

我れ風流を解する人にあらぬべし。

Q68.

物のあはれを知るべき人。

Q69.

海辺に住まひすべき人にあらず。

Q70.

我れ家を立つべし。

Q71.

人は信義をたもつべきもの。

Q72.

物のあはれを知る人なるべきを、いまは知らず。

Q73.

法皇、御幸し給ふべきことあり。

Q74.

我れ仕うまつるべき所、いまだ定まらず。

Q75.

春雨降るべき夜なり。

Q76.

雪の高き、しのぎ難からぬべし。

Q77.

我れ親を孝養すべき人なり。

Q78.

月清く照るべき夜なれば、なほ趣あり。

Q79.

いまだ若き身なれば、学ぶべき多し。

Q80.

風吹くべきに、なほ風ぐ。

#### 【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81.

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ、これらは、ただ夢のごとくにぞある。

Q82.

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと問ふべし。

Q83.

いみじき宿世の人にあらずは、かかる目に遭ふべからず。

Q84.

風雅を解する人は、世に少なかるべきこと、心得たり。

Q85.

我れ仕うまつるべき主に巡り会ふべし。

Q86.

春雨にぬるる桜の枝、なほ折るべからず。

Q87.

物のあはれを知らぬ人にあらずなるべし。

Q88.

心ある人ならむ。よし、ともかくも、頼むべき人にあらず。

Q89.

君、御身を案じ給ふべき人なり。

Q90.

物のあはれを知り給ふべき御身なり。

Q91.

風吹けば舟出づべからず。

Q92.

仏に祈り給ふべきぞ。

Q93.

我れ歌を詠むべき才あるべきを、いまだ詠まず。

Q94.

月の都の人ならば、いま帰るべきぞ。

Q95.

あけぼのの空おぼろにかすめるを、人皆趣ありと思ふべし。

Q96.

物のあはれを知らんとならば、まづ古典を学ぶべし。

Q97.

信義をたもつべき人、世に少なし。

Q98.

風雅を解する人なるべきを、なほ俗にまみる。

Q99.

行く川のながれは絶えずして、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、つひに消ゆべし。

Q100.

心ある人、なほ古典を愛で給ふべし。